

キャラクター名  
黒原 広登

プレイヤー名

シンドローム	エグザイル サラマンダー		ワークス	UGNチルドレンA	カヴァー	何でも屋
	オプション		年齢	20	性別	男
覚醒	渴望	衝動	破壊	初期侵食率	33	%
出自	義理の両親	経験	大勝利	邂逅	主人公	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	31
肉体	4	1	0			5	行動値	3
感覚	1	0	0			1	(非装備時)	3
精神	1	0	0			1	戦闘移動	8
社会	2	0	0			2	全力移動	16

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	2		射撃			RC	1		交渉		
回避	1		知覚			意志			調達		
運転:			芸術:			知識:			情報:	UGN	1
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
氷炎の剣	白兵	5r	6	+ [Lv+6]		「氷炎の剣」で作成した剣。

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
レザージャケット	4	2			

所持品	
カジュアル 携帯電話	

合計装甲: 2    合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイム	消費
霧谷雄吾	P 幸福感	N 敵愾心		
Dロイス: 器物使い	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 4    残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
異形の祭典	3	3	メジャー	-	4	シンドローム	-	
効果: これを組み合わせた攻撃対象を「Lv+1」に変更。1シーンに1回。								
エネルギーマイスター	1	3	メジャー	-	-	シンドローム	-	
効果: これを組み合わせた攻撃をガードした対象のHPを「Lv×3」失わせる。								
コンセントレイト:サラマンダー	2	2	メジャー	-	-	シンドローム	-	
効果: これを組み合わせた判定のクリティカル値を-Lvする。(下限は7)								
伸縮腕	2	2	メジャー	視界	-	白兵	-	
効果: これを組み合わせた白兵攻撃の射程を視界にする。これを組み合わせた判定のダイスを-「3-Lv」個する。								
炎神の怒り	2	3	メジャー/リアクション	-	-	肉体	-	
効果: これを組み合わせた判定のダイスを+「Lv+1」個し、HPを3点消費する。								
氷炎の剣	2	3	マイナー	至近	自身	-	-	
効果: 氷炎の剣を作成。								
異形の転身	3	5	イニシアチブ	至近	自身	-	-	
効果: 他と組み合わせ不可。イニシアチブで戦闘移動。1シナリオにLv回まで使用可能。								
貪欲なる拳	2	3	メジャー	武器	-	白兵	-	
効果: これを組み合わせた白兵攻撃のダイスを+[Lv+1]個する。								
	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

私は———そう、怪物だ。  
常に何かに飢えている、怪物だ。  
産まれたときから怪物だったように思う。  
私の両親は、物心つく前に別人になっていた。  
彼らは、私の身に余るほどのものをくれた。  
しかし、気づくと彼らはいなくなっていた。  
彼らを殺したものを、私は殺した。  
そして、彼は私を褒め讃えた。「素晴らしい」と。  
まあ、私の人生経験上、賞賛されたことはそう多くも無かったので、これは正直、嬉しかった。  
そして、私は彼の下に就くことにした。  
無論、この賞賛を私のものにするためだ。  
ああ、しかし———私の飢えは満たされない。  
彼もろともに、全てを無くせば、この飢えは満たされるのだろうか———。  
シナリオ2より  
彼らは気づいているのだろうか。  
あれは我々、オーヴァードの末路だということに。  
あのジャームは、経緯以外は何ら特別なものでは———いや、違うな。あれは一つ特別な点があった。  
奴のシンドローム、否、どのシンドロームでも不可能なはずの「他者のジャーム化」。  
確か、あの研究者は「ジャームを兵器にする」と言っていたような気がする。テンパストじゃあるまいに。  
いよいよ私も異形の怪物らしくなってきたが、その末路は案外、あのような生体兵器になるのかもかもしれない。